



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



2021年8月12日夕刊

記事を読んで、問いに答えましょう。

①記事を読んで()にあてはまる言葉を書きましょう

日本で有名な菓子を()で()する流れが進んでいる。

②現地生産することのよさは何ですか。2つ書きましょう。

[Blank area for writing answers to questions 1 and 2]

③東京五輪が、日本の菓子の海外展開にプラスになっているのはなぜですか。2つ書きましょう。

[Blank area for writing answers to question 3]

井村屋	マレーシアで現地生産のあずきバーを9月から販売
おやつカンパニー	ペビスターラーメンを台湾で生産
森永製菓	ハイチュウを米国内で生産

Q 菓子の海外展開 人口減少で国内市場の成長余地に限られる中、多くの国内菓子メーカーが海外展開を加速している。日本からの輸出のほか、現地企業に生産委託したり、現地に自社工場をつくらたりする企業がある。江崎グリコが人気チョコレート菓子「ポッキー」をフランスで「ミカド」の商標名で販売するなど、名産を地域によって変えることがあり、味を現地風にする場合も多い。

おやつカンパニー (津市は2017年、主カスナックのペビスターラーメンを生産する初の海外拠点を台湾北部に建設した。秘伝のチキンソースの配合を現地の味覚に合わせて調整。アジアの他地域向けの生産も手掛けており、担当者は「アジアでペビスターメン

「あずきバー」や「ペビスターラーメン」、「ハイチュウ」といった日本で有名な菓子を海外で現地生産する流れが進んでいる。人気の高まりや海外販売の増加を背景に輸出から

井村屋(津市)は、発売から48年の歴史を誇る人気アイスあずき

期待する。

田沢純一選手が球団に

差し入れたことで選

日本の菓子 進む海外展開

現地生産、味のアレンジも



井村屋の「あずきバー」



森永製菓の「ハイチュウ」



おやつカンパニーの「ペビスターラーメン」

転換。味のアレンジなど現地化が進む。東京五輪で日本に注目が集まったことがさらなる市場開拓の後押しとなりそうだ。

バードで今秋、初めて海外生産に乗り出す。マレーシアの企業と組んで「AZUKIBAR」の現地販売を9月から開始。イスラム教徒が多いため、現地の法律に合わせた「ハラール」認証にも対応した。現地の嗜好(しこう)に合わせて甘さを控えめにし、パッケージもアズキの花の図柄を使うなど躍動感を前面に出

これまで日本からの輸入だったため販売価格が高く、在住日本人や富裕層の購入が多かった。現地生産品は安くできるといい、井村屋のグループ会社でプロジェクトを担当する北将之さん(44)は「現地の人に広く食べてもらいたい。近隣の国にも展開できれば」と期待する。

森永製菓は、15年に米国でハイチュウの生産を開始。今ではウォルマートなど全米の小売店の店頭に並ぶほど大人気となっている。一役買ったのは日本人大リーガー。レッドソックスに所属していた

「(広報)として、販路拡大を進める。東京五輪では、選手村やコンビニなどで手に入る日本のお菓子が各国関係者の間で好評だった。会員制交流サイト(SNS)などで紹介する動きもあり、中部圏社会経済研究所の難波一上席研究員は「普段日本のお

菓子と接点がない人にも注目してもらえそう。海外展開にも「プラスになる」と指摘

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 小川訓靖(静岡市立清水三保第二小学校 教諭)

(小学校高学年/社会、家庭)

